

GBR の失敗の原因となる材料特性を 検討する

赤野 弘明

赤野歯科クリニック



現在、GBR 法における手技はほぼ確立していると思われるが、そこで用いられる骨移植材やメンブレンの種類は多種多様を極め、その選択に確信をもって判断を下すことが難しい。同じようなシチュエーションで、手術手技を変えていないにもかかわらず、材料選択の違いによって、その結果に大きな違いをもたらす場合に遭遇することは誰もが経験する事と思われる。今回、メンブレン（特にコラーゲン由来）と骨移植材にフォーカスし、どのような特性を持つ材料がより良い結果を生むとともに失敗しにくいのかを検討していきたい。この場合、これらの材料が生体の治癒の流れを阻害せずに取り込まれていく必要がある。そのため、今回の講演では生体の治癒の理解に重点をおいて、その選択理由を検討していく。

略 歴

1990年 大阪大学歯学部 卒業
1994年 ペンシルバニア大学歯周補綴科 留学
1997年 赤野歯科クリニック 開院

現在の役職及び所属学会 等

・AAP 会員
・EAO 会員
・AO 会員
・DTI 講師
・鶴歯会、
・TDA 講師

memo